

2010年5月31日

## 帝人化成、電子ペーパー用透明導電性フィルム市場に参入

帝人化成株式会社

帝人化成株式会社（本社：東京都千代田区、社長：酒井和幸）は、4月1日付で帝人株式会社新事業開発グループ融合技術研究所から電子ペーパー用透明導電性フィルムの技術移管を受け、生産・販売を開始しました。

電子ペーパーとは、紙の特性（印刷された情報を固定し電力ゼロで表示し続ける）とディスプレイの特性（表示する情報を変えられる）を併せ持つ「書き換え可能な紙」と定義され、高い視認性、超低消費電力、薄型で軽量という三つの特長を持つ表示素子です。

電子ペーパーの用途として、電子書籍リーダー、携帯電話、腕時計、電子棚札、POP（Point of purchase advertising）広告（店頭販売促進）、Digital Signage（電子看板）等があります。

表示方式は大きく分けて二つあり、一つは顔料等で着色した2種類の微細な粒子を帯電させ、電界をかけてどちらかの粒子を表面に付着させて反射する色を選択する方式、もう一つは光の透過と反射の制御に液晶を使う方式です。

現在、ガラス基板を使用した表示素子の商品化が先行していますが、今後薄型化・軽量化のため透明導電性フィルムの採用が期待されます。

帝人化成は、ハードコート等の精密塗工技術、ガスバリア層、透明導電層等の真空成膜技術を活かし、電子ペーパー用透明導電性フィルムの開発・生産・販売を行います。基材となるPC（polycarbonate）フィルムは自社内から、またPET（polyethylene terephthalate）フィルムは帝人デュポンフィルムから調達できるため、基材から透明導電性フィルムまで、帝人グループ内で製品設計・生産ができることが強みです。

帝人化成は、帯電微粒子を使う方式向けに、PETフィルム基材の透明導電性フィルム HP125 を、また液晶を使う方式向けに、PCフィルム基材の透明導電性フィルム SS120 を推奨しています。

更に、電子書籍リーダーは操作性の点からタッチパネル付表示素子が好まれるため、同用途向けにタッチパネル用透明導電性フィルムを推奨しています。

帝人化成は、上記精密塗工技術、真空成膜技術を深化させ、次のターゲットとして有機ELディスプレイ用の透明導電性フィルム市場を狙います。